二月六日　木曜日　　ちょっと大げさかなあ

京太は　もう　スキーに行った。
夕べ、兄貴と争っているとき、
「もう、明日、行かへん！」と言っていたが、
朝になると、下の部屋では、幹夫しか寝ていない。
おばあちゃんに、夕べのインクこぼした事を話す。
「あろとくから、心配せんでええ」と言ってくれた。
僕は　めしを食った後、早い目に家を出ようと思い、
いつもの様に、じっとコタツに座るのはやめて、
すぐ立って、制服を着て、下駄箱から古い靴を出してはく。

朝、七時十三分の各停に乗車、満員でギュウギュウ。
この各停、大阪行きの急行と中書島で連絡している。
大阪方面へ行く人が　中書島の駅で　降りるかなあと
僕は期待していたが、なんのその、全く降りる気配ない。
皆、その各停で　京都方面へ行く人だ。

結局、僕は　三条京阪まで、その各停のドア沿いに、
もたれて、立ったまま、ずっと、外の景色を見る。
水鳥の様に、鴨川の水面を滑走できれば、
さどかし、いい気持ちだろうなあ。
水鳥が自由でうらやましい。

三条京阪バス停、今日もあの子はいない。
七時四十三分のバスに乗る。
バスは　座れた。

39　ちょっと大げさかなあ・・・・・・・・・・・・・166

萩原良昭